

本件の報道解禁を、新聞は2月13日（金）組14日（土）付朝刊から、テレビ・ラジオ・WEBは2月13日（金）18時以降とします。



## 水を調べるだけで在来、外来オオサンショウウオの生息域がわかる

神戸大学広報室

神戸大学大学院人間発達環境学研究科の源利文(みなもと としふみ)特命助教、福本想(ふくもと そう)氏(研究当時4年生、現京都大学大学院生)、丑丸敦史(うしまる あつし)教授のグループは、河川水から採取した水に溶け込むDNA(環境DNA)の情報から、特別天然記念物のオオサンショウウオおよび近縁外来種のチュウゴクオオサンショウウオの生息情報を得ることに成功した。

### <ポイント>

- ・ 河川の水を4リットル汲んで解析するだけでオオサンショウウオの分布がわかる
- ・ 環境DNA分析手法を用いた野外調査としては、広域を継続的に調べた国内初のケース。京都府下桂川水系37個所で2012年から2013年の1年間に4回調査
- ・ 近縁な外来種であるチュウゴクオオサンショウウオのDNAも区別して検出することに成功
- ・ 今後、国内の他地域における調査を計画

源特命助教らの研究グループはこれまでに、両生類や魚類のうろこや排泄物などから環境水(河川水や湖沼水)に溶け出ているDNAに着目。それらのDNAを精度良く検出して水中生物の生息エリアを予測する手法を、主にブルーギルなどの比較的生息数の多い魚類を対象にして開発してきました。本研究ではその方法を応用して、河川水の採取によって、特別天然記念物のオオサンショウウオおよび外来種であるチュウゴクオオサンショウウオの生息エリアを推定する手法の開発に成功しました。本研究成果は、平成27年2月13日9時(グリニッジ標準時、日本時間18時)に英科学誌「Journal of Applied Ecology」に、オンライン掲載されます。

以上の研究成果を以下の日程で発表します。

2月5日(木)10:30～、兵庫県教育記者クラブ

発表者は源先生です